

学校経営計画のゴール: 1人1人を大切にした進路保障 ~ 1クラス減の中、国公立大学合格 79名! 過去最高の合格率(2.5人に1人)! ~

- ・ 1年生の福高祭に対する満足度 95.4%!
- ・ 部活動加入率 87.0%!
- ・ ボランティアバンク(359名)、生徒会によるボランティア活動 年間 32種!
- ・ 2年生第 類(理数系)の習熟度別講座に対する満足度 93.1%!
- ・ 読書活動推進に向けた企画数 45回!
- ・ 研究(公開)授業を見学した教員数 年間 160名!

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
府民の期待に応える学校づくりの推進	(成果)	1 学力の向上と希望進路の実現
1 「知・徳・体」の調和の取れた生徒の育成	1 1クラス減のなか、国公立大学の合格率(2.5人に1人)は文理科学科の設置以降、最高の実績となった。また、医学部医学科へ2名、私学の最難関(早稲田慶応・上智)へ延べ17名が合格するなど輝かしい実績を収めることができた。	(1) 各教科で生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善を積極的に進め、全ての生徒の希望進路を実現することを最大の目標とする。
2 「個を活かし、公に生きる」生徒の育成	2 平成23年度「学力向上フロンティア校」支援事業に係る各種取組を展開することにより、普通科生徒の表現力、思考力の向上を図ることができた。	(2) 主体的な学習態度並びに思考力、判断力、表現力の育成の観点から、日々の演習等について見直しを行う。
3 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成	3 文理科学科の研究活動に、グループ研究を取り入れ、研究の深化やその手法において大きな成果を刻むことができた。	(3) 新学習指導要領の円滑な実施に向けた校内体制の整備に努める。
	4 生徒指導の一環として愛校心のある生徒の育成に取り組み、校歌を大きな声で歌う指導において、著しい成果を収めることができた。	2 普通科の活性化と文理科学科の充実
		(1) 平成23年度「学力向上フロンティア校」支援事業により多様な企画を展開し、着実な学力向上と進路意識の高揚に努め、普通科全体の活性化を図る。
		(2) 文理科学科の教育活動内容のさらなる充実を図り、それを生かした希望進路の実現に努める。また、文理科学科の取組を中学校や地域に積極的に広報し、その趣旨を理解した意欲的な生徒の入学に努める。
		3 豊かな心を育む教育の実現
		自他の敬愛の心と公共心や社会貢献を育み、共生社会に必

5 ボランティアバンク登録生徒数が過去最高となり、校内にボランティア活動に対する意識が定着してきている。

6 今年度もOJTの充実に取り組み、その成果を様々な教育活動で確認できた。

7 体系的な各種広報活動と中学校の御理解、御協力により、初めての入学生を迎える中学校が複数出るなど、生徒募集をさらに充実させることができた。

(課題)

1 自立学習の観点から課題提示について検討を加え、より効果的に生徒の学力向上に資する在り方を構築する。

2 生徒1人1人に応じた学習指導を重視し、具体的支援を行うことにより、各生徒に歩み続ける力を育む。

3 教科内でOJTをより推進し、本校が有する人的資源を最大限に活用し、安定した組織として成長を遂げる。

4 2年生普通科第Ⅱ類(理数系)で実施した習熟度別学習に対する高い評価を新教育システムの成功につなげる。

5 お知らせメールやホームページを頻繁に活用し、生徒や学校の様子を発信する。

要な力を育成する。
具体的には、

(1) 主体的な学習態度で、勉学に励む生徒

(2) 礼儀正しく、挨拶のできる生徒

(3) 部活動を頑張り、規律ある生活が送れる生徒

(4) 愛校心のある生徒

の育成を目指す。

4 OJTの充実
教職員の資質・能力の向上及び組織としての学校の教育力を高めるといった観点からOJTの意識の定着を図る。

5 適正な学校運営と安心・安全の学校づくり
全教職員が危機意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたるとともに、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。

6 家庭・地域・関係機関との連携の強化
積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にし信頼関係を築く。また中学校や地域等へ本校の教育方針を理解してもらうための取組を一層推進する。
さらに、関係機関との連携・協働により、一層の教育効果の向上に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	次年度の新教育システムの導入を視野に入れ、習熟度別講座の充実を図る。	・2年生普通科第Ⅱ類(理数系)に設置した習熟度別講座において、充実した学習指導を展開する。	A	・2年生普通科第Ⅱ類(理数系)に設置した習熟度別講座(数学・物理・英語)を受講している生徒に対するアンケートの結果、93.1%の生徒が満足していると回答しており、新教育システムの講座編制に大きな支えとなる結果を得ることができた。
	組織力のさらなる強化の観点から昨年度に引き続きOJTに取り組む。	・職務遂行及び教科指導方法の共有の面で、常にOJTを意識し、分掌及び教科内での連絡や情報交換を活発に行い、強固な組織を構築する。	B	・OJTにより、組織力向上を実感した割合は、教科が79.3%、分掌が84.4%で、トータルすると82.0%となった。分掌については、会議の定例化、日常の情報交換等によりAに近い数値が出たが、教科の評価が低く、個の指導力が教科全体の力になっていない様子が窺える。 今後も、教科主任を中心に、活発な情報交換を促す。

	日々の演習の在り方について見直しを行い、自立的学習に向けての支援を行う。	・「日々の演習」の見直しを行った、本校にとって新たな学習指導を通して、日々の演習実施時以上の学習効率を実感させる。	X	・「日々の演習」について見直しを行ったが、その在り方について趣旨が徹底できていなかったため、アンケートを実施しなかった。 次年度に向け、一貫した指導が展開できるように、課題提示について共通認識を持つ。
教務部	生徒の学力の向上に資するために、授業の質の向上を図る。	・研究授業、公開授業により、授業の質の向上を図る。	C	・研究授業、公開授業は21回の実施であった。見学者数は、延べ160名を超えた。 今後も授業を見学する機会を確保する。
		・「わかる授業」、「伸ばす授業」の実践を促す。	C	・授業評価アンケートで生徒満足度が4以上の教員は23名であった。 受け入れるべき結果は、今後の改善につなげたい。
	基礎学力の定着や欠課時数過多生徒に対する指導により、単位の不認定をなくす。	・成績不良による単位不認定者を出さない指導を行う。 ・10%、15%指導により、20%超過による単位の不認定をなくす。	B A	・成績不良が心配な生徒に対して、考査前等に丁寧な指導を行い、一定の成果を得た。 ・支援対象生徒を除けば、欠課時数過多による単位の不認定生徒は出なかった。
生徒指導部	安定した学校生活が進路実現につながるという観点から、規範意識の向上を図る。	・頭髪、服装、遅刻等に関する規範意識を向上させる。	C	年間指導件数18件 ・担任や部活動顧問等の事前指導により、問題行動を未然に防ぐことができた。 しかし、プロフやブログ内での情報モラルについては継続して指導する必要がある。
		・交通安全に関する規範意識を向上させる。	C	アンケート結果 78% ・概ねよいが、改善を必要とする生徒に対して指導を徹底できなかった。 次年度は生徒会等と連携し、規範意識の向上に努めたい。
	みらいに貢献できる人材を育成する観点から、「知・徳・体」の調和の取れた人格を育成する。	・豊かな高校生活を営むため、部活動の加入率を上昇させる。	B	部活動加入率87% ・例年と同様加入率は高いものの、部員不足の部活動も出てきている。特に、女子の運動部員加入率が極めて低い状況で

		<ul style="list-style-type: none"> ・視野を拡大させるとともに生き方や適性について考える機会としてボランティア活動を推進する。 	<p>ある。</p> <p>C 参加人数（3回以上）32人 ・2回以上実施した生徒は86名おり、多くの生徒が継続してボランティア活動に取り組むことができた。</p>
	自己のみらいを切り開くことができる、感性豊かな人間性を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の活性化を図り、新規企画を実践する。 	<p>B 新たな活動回数7回 ・挨拶運動やボランティア活動等を連携して実施した。 今後も生徒の抱えている課題を生徒会と連携し、解決に向けて、企画を検討したい。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・校歌を歌うことのできる生徒を増やす。 	<p>B アンケート結果 80% ・2学期終業式より運動部員を中心に、大きな声で校歌を歌える生徒が増えてきており、式典の雰囲気を引き締まったものにできた。</p>
進路指導部	1、2年生の進路に対する意識を向上させ、目的意識をもって学習し、基礎学力を充実させるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・総務企画部と連携して進路目標設定を促進する取組を展開し、スムーズに受験勉強へ移行させる。 	<p>C ・小論文指導、大学別模擬授業等の取組において、総務企画部と役割を分担して実施することができたが、2年生の進路希望調査未定者数は9名であった。 今後は、計画段階から十分な連携を図る必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・各休業中の進学講習を実施し、将来の受験に対応できる学力と意識を高める。 	<p>C ・1年生進研記述模試の7月から11月にかけての平均偏差値が55を超える生徒の増加人数は13名であった。 成績の「二極化」はやや解消しつつあるが、英数国を中心とした基礎力の一層の充実を図る必要がある。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の1つの指標に2年生進研記述模試を掲げ、7月と11月の比較で、平均偏差値が55を超える生徒の増加を目指す。 	<p>D ・2年生進研記述模試の7月から11月にかけての平均偏差値が55を超える生徒は4名減少し、科目に対する苦手意識を解消させることができなかった。ただし、2学期後半以降の様々な取組の中で、やや意識の向上が見られる。</p>
		3年生の進路希望に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験対策演習と「にじゼミ」を充

	<p>を行い、目的達成のための支援を行う。</p>	<p>実させ、受験に対応した学力を向上させる。</p> <p>-----</p> <p>・国公立大学延べ合格者数を目標に掲げ、達成に向け、指導に努める。</p> <p>-----</p> <p>・推薦入試、特に国公立大学推薦入試受験生に対する小論文指導、面接指導を計画的に行い、合格率を上げる。</p>	<p>A</p> <p>70%を超える生徒数の割合は55.8%であった。センター演習等の地道な取組によって、センター試験では全体的に高得点を収めることができた。</p> <p>-----</p> <p>C</p> <p>・国公立大学延べ合格者数は、79名であった。 二次試験に向けて主体的に学習できるよう指導の工夫が必要である。</p> <p>-----</p> <p>B</p> <p>・国公立大学推薦入試の合格率は50%であった。学校全体の支援態勢によって推薦入試に向けての指導を充実させた結果、18名の合格者を出すことができた。</p>
保健部	<p>健やかな学校生活を送るために、生徒に自らの健康に対する意識を向上させる。</p>	<p>・3年生予防接種の受診率の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>・3年生に対して予防接種の勧奨を目的とした啓発文書等を発行し、88.1%を達成したが、昨年度実績(90.1%)にやや及ばなかった。</p>
	<p>環境問題に関心を持たせ、環境に対する豊かな感受性と環境に配慮した考え、行動ができる態度の育成に努める。</p>	<p>・地元地域での環境に関心を持ち、地域の美化に貢献する態度を養う。</p>	<p>B</p> <p>・警報等の影響もあり実施回数については2回にとどまったが、企画回数としては5回を達成した。</p>
	<p>危機管理意識を持ち、安心安全な学校作りに努める。</p>	<p>・事故、災害状況便りを定期的に発行し、けが防止の啓発に努める。</p>	<p>B</p> <p>・事故・災害便りの発行は2月で9回を数え、事故及び怪我の防止を目的とした啓発を行った結果、災害共済給付の申請者数が昨年と比べて激減した。</p>
総務企画部	<p>学力向上フロンティア校支援事業に係る取組、並びにキャリア教育を計画的に実施し、着実な学力向上と進路意識の高揚に努める。</p>	<p>・事業計画書に基づき、取組を具体化することにより、学力向上に努める</p>	<p>B</p> <p>・「学力向上フロンティア校」支援事業の計画並びにキャリア教育の指導シラバスに基づき、各分掌の協力を得て、予定した取組を概ね実施し、生徒の学力向上に寄与した。模擬試験や実力テストの伸び率平均は0.63Pであった。 次年度のフロンティア事業に向け、職員の共通理解と取組の精選を図ることが課題である。</p>
		<p>・キャリア教育や「みらい考」の取組を通して生徒一人一人の進路に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>・2年生「みらい考」を進路指導部と連携して進めることができ、進路希望決定</p>

			A	に向け、意識を高めた。 2年生の進路希望先決定率は96%であった。
	各分掌や学力向上707イ推進委員との連携を強化し、取組の円滑な運営に努めると共に、外部発信を積極的にを行い生徒募集を強化する。	・分掌会議並びに各分掌との会議を定期的に行い共通理解と組織的な運営を図ると共に、OJTの充実に寄与する。	B	・分掌会議を持ち、行事予定や進捗状況等、共通理解を図りながら進めたが（現時点で39回）、定例という点では課題を残した。特に、福高だよりや「みらい考」に関して、関係分掌との連携を大切にしたい。
		・お知らせメールやホームページ、福高だより等を外部発信の手段として有効に活用する。	B	・福高だよりを通して普通科の学習状況を定期的に外部発信した。小中学校への発行並びにホームページへの掲載、お知らせメールの回数は22回であった。
人権教育部	様々な人権問題について正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	・学年部や他分掌と連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。	B	・学年部と連携し、学期毎に、計画どおり人権学習や人権講演を実施した。 人権学習の教材の1つとして、人権学習資料集（高校編）の活用も検討する。
	各種援護制度の紹介と活用を図り、就修学の保障に努める。	・援護制度について、広報や説明会を充実し、援護制度の周知に努める。	C	・学生支援機構奨学金の事務処理を円滑に行った。 援護制度の周知に努めたが、ホームページやお知らせメールの活用については不十分であった。
	教職員の人権意識の高揚を図り指導力の向上に努める。	・教職員研修を充実し、教職員の指導力の向上に努める。	B	・保健部や生徒指導部と連携しながら、「特別支援教育」及び「ネット社会と人権」をテーマに2回の教職員研修を実施した。
文理科学科推進部	「みらい学」を中心とする文理科学科の教育活動内容を検証し、さらなる充実を図る。	・文理科学科の教育活動のさらなる充実を目指し、改善を図る	B	・「みらい学」の研究活動をグループ研究に統一、京都大学連携講座の内容変更、宿泊研修訪問先の改善等多くの変更を通して教育活動を充実させた。
	文理科学科の海外研修旅行の充実を図る。	・中国研修旅行を、研究活動を充実させる手段として有効に活用する。	C	・今年度が最後の中国研修旅行となったが、生徒の満足度は71%であった。 この研修旅行の成果・課題を整理し、次年度実施するマレーシア・シンガポール研修旅行の充実に向けて努力する。

図書視聴覚部	読書活動を通して読書の3つの力（豊かな表現力・感性を磨く力・知識に裏付けられた判断力）を育成する。	・年間を通して読書活動を推進する企画展示、啓発を積極的に推進する。	B	・読書活動推進企画は展示企画2回、読書会3回、ミニ展示企画26回、移動図書館14回の計45回実施した。
	保護者、地域、中学生から信頼される広報活動に取り組む。	・ホームページの既存項目の更新以外に、新規項目の追加に取り組む。	C	・ホームページの新規項目は福高だより、普通科通信、文理科学科通信等の広報資料を新規に4種を追加した。 次年度は学校行事等日常的な更新頻度の向上を図る。
		・お知らせメールの内容を充実させ、保護者の登録率を上昇させる。	C	・お知らせメール登録率（兄弟姉妹は下級生で集計）は、1年生92%、2年生81%、3年生69%で全校で82%となった。 次年度は登録率の一層の向上と、情報発信頻度の安定性・継続性を図る。
事務部	安心・安全な教育環境を保持する。	・定期的な安全点検を実施する。	B	・定期点検により、不良箇所の早期発見、環境整備を行ったが、次年度以降、より一層組織的に取り組む。
	学校予算を効率的に執行する。	・予算のヒアリングを実施し、予算面で支援する。	B	・厳しい財政状況であったため、全体として、80%程度の配分で、前年度以上の予算配分は行えなかった。
第1学年部	生活と学習における基礎基本の徹底を図る。	・「日々の演習」を通じて、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	B	・「日々の演習」の提出率は、86.4%であった。未提出生徒には個別指導を行った。家庭学習習慣の確立に大きな成果が見られたが、さらに学力の向上に向けて充実を図る。
		・挨拶や頭髪服装、遅刻防止等の徹底に向けた指導を徹底する。	B	・年間の遅刻指導人数は1名であった。頭髪・服装については、共通認識を持ち指導した。 一部の生徒の乱れについては、関係分掌とも連携し、今後も粘り強く指導する。
	豊かな人間性の育成に努める。	・部活動の加入とボランティア活動への積極的な参加を促す。	B	・部活動への加入については、年間を通じて積極的に指導したが、運動部への加入率が例年に比べ低く、83%の加入率となった。
	・ボランティアへの積極的な参加を促す。		・ボランティア活動への参加は129名	

			B	であった。 次年度も積極的に参加するよう指導に努める。
		・クラス及び学年の委員会活動を活用し、生徒自らが積極的に参画できる学校行事やホームルーム活動の運営をする。	A	・クラスや学年の委員会を中心に、意欲的に学校行事やホームルーム活動に取り組んだ。福高祭に対する満足度（取組参加状況を含む）は95.4%であった。
	自己の生き方や進路意識の喚起を図る。	・面談を積極的に行い、「みらい考」・「みらい学」を活用して進路意識を喚起する。	A	・これまで各クラス1人平均6回程度の面談を実施し、生徒の学習や進路の意識を喚起した。
第2学年部	基本的な生活習慣を身につけさせ、社会人としての資質を養う。	・時間厳守、服装、挨拶やマナー、掃除の徹底等について、学年部全体で繰り返し指導を行う。	B	・年間掃除補充対象者は1名であり、概ねまじめに取り組んだ。 服装やマナーの面では、最上級生に向けていっそうの意識向上が望まれる。
	学力の伸長と希望進路の実現を目指す。	・授業を大切にするとともに自ら学ぶ姿勢を養い、基礎学力の定着と伸長を図る。	D	・学期途中に見られた成績不良科目も、3学期、安定した姿勢で学習し、全員が不認定科目を持つことなく進級することができた。
		・進路指導部や総務企画部と連携し、具体的な進路目標を明確にさせ、オープンキャンパス等への参加を促す。	B	・夏季休業中のオープンキャンパス参加者は150人程度であった。 さらに、2、3学期に実施した大学模擬授業や進路学習、志望理由書作成等を通じて進路意識を高めた。
第3学年部	希望進路の実現を目指す。	・1学期中に、すべての生徒が具体的な希望進路を決定し、具体的かつ主体的な受験計画を立てる。	A	・志望校検討会議、教科担当者会議、面談を行い、生徒の状況に合わせた希望進路を決定させた。進路希望未決定者は1人も出なかった。
		・各分掌、各教科と連携し、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。	A	・推薦入試、一般入試の出願に関しては十分な検討、面談を行い、きめ細かな指導を行った。 短時間の面談も併せて10回以上実施した。
国語科	学習に対する強い意欲を持ち、自主的に学ぶことのできる生徒を育てる。	・1年次においては、「日々の演習」をはじめとする課題の配布や確認テスト等の実施を積極的に行い、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 2年次以降については、課題や小テストの内容		・2年生で、「日々の演習」に代わる課題の提示によって、各クラスの実情に応じた指導を行った。 センター試験の校内における平均点

	を工夫し、自ら学んだ成果をテストで確認させる。 その結果、最後まで学力を伸ばすことのできる 実力を涵養する。	B	は、132.5点（138名受験）で、全国 平均点117.95点と比べて+14.55点 であった。分野別の平均点では、現代文 69.5点（満点100点）、古文28.8点（満 点50点）、漢文34.2点（満点50点）と なっている。 さらなる平均点の上昇を目指し、古文 の基本事項の徹底を図る。	
	・日本漢字能力検定の受験を奨励する。	D	・漢字検定（年間3回実施）の1回平均 受験者数は14名であった。 受験者を増加させるために、一層の啓 発を図る。	
	生徒の興味関心を引き出し、学習 意欲を高めることのできる授業を目 指し、工夫と改善に努める。	・定期的な教科内会議や研究授業を積極的に行 う。また、各教員の持つ知識や情報の共有を図る。	B	・校内研究授業は6回実施できたが、年 度の後半に十分な回数を実施できなかつ た。 次年度以降、年間を通じた実施を目指 す。
地歴公民科	生徒の学習意欲を高める指導の工 夫改善を積極的に進め、スキルアッ プに努める。	・地歴公民科教員の授業力アップに向けて、公開 研究授業を積極的に実施する。	B	・今年度も延べ5回の公開・研究授業を 実施することができた。 今後も授業力アップに向けて、積極的 に実施する。
	進路希望実現に向け、個に応じた 指導を徹底し、全力で生徒をサポート する。	・進路希望実現に必要な学力を養成するため、模 擬試験結果の分析を計画的に実施する。	B	・今年度、初めて教科会議において模擬 試験分析の会議を5回実施した。各科目 の弱点や課題を共有でき、生徒への指導 に役立てた。
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を 育成する。	・授業を大切にする学習を推し進め、家庭学習指 導等を通じて学習習慣と基礎学力の定着を図ると ともに、主体的・積極的な数学活動の育成を図る。	D	・数学コンテストには122名が受験し たが、本年度も本校からの入賞者はなか った。 校内数学コンテストは全学年を対象と したもので、問作に苦心した。 今後、より効果的な取組になるよう改 善を図る。
	多様な希望進路に対応できる学力 を養成する。	1年生：効果的な学習方法を指導し、基礎学力を 徹底させる。	C	・1年生は日々の演習等を通じて学習習 慣や基礎学力の確立を図った。学習習慣 や学習態度の差が学力差となって現れ ており、学習意欲を高める取組を取り入れ る。 第2回府立高校実力テスト数学60点

		<p>2年生：小テストや課題を通じて学力の点検・補充を行い、基礎学力の完成を図る。</p> <p>3年生：センター試験対策演習やにじゼミ等によって、進路実現に必要な学力を充実させる。</p>	<p>以上得点者は121人であった。</p> <p>A</p> <p>・2年生は基礎学力を身に付けさせることができたが、「日々の演習」の見直しにうまく対応できていない生徒も見られるため自主的学習のさらなる推進を図る。 第2回府立高校実力テスト数学B60点以上得点者は198人であった。</p> <p>A</p> <p>・3年生はマーク模試等でも学力の伸長が見られ、大学入試センター試験でもその成果が見られた。 大学入試センター試験数学I A校内平均は78.4点であった（自己採点結果・全国平均69.97点）。</p>
	<p>学習意欲を高める指導の工夫改善を推進する。</p>	<p>・活発で効果的な教科指導が行えるように定期的な教科会議や校内研修によって教科内の意思統一を図る。</p>	<p>C</p> <p>・定期的に教科会議を行い、指導体制の確立に向けて担当学年を超えて指導内容や指導方法について交流するとともに研究授業等を通じて授業方法の改善に取り組んだ。また、次年度からの新教育課程についての研修も実施した。</p>
理科	<p>自然科学に興味・関心を持ち、主体的に学習する生徒を育成する。</p>	<p>・課題演習内容の質的向上に努め、学習習慣の定着と希望進路実現のための演習課題を確実にやりきらせる指導を継続的に行う。</p>	<p>B</p> <p>・理科の特性を生かし、授業における様々な実験や体験を通して、生徒が興味を持って授業に臨めるよう、工夫・改善を行った。 日々の家庭学習を自主的・計画的に進めさせることを目的に、各小教科で課題を設定し、取り組ませた。課題の提出率は84%であった。 全ての生徒が確実に課題を提出できるよう、指導の工夫を進める。</p>
	<p>希望進路の実現に向け、確実な学力の定着と国公立2次試験に対応できる思考力を育成する。</p>	<p>・基礎学力の確実な定着（2年）と、希望進路の実現に必要な学力の育成（3年）に努める。</p>	<p>A</p> <p>・全ての生徒が確実に学力を伸ばせるよう、小教科の特性に応じて工夫した授業展開を行った。今後、指導の徹底を行うと共に、問題解説の時間確保や効果的な学習方法についてさらに検討を進める。 センター試験の全国平均との比較は+9.1点であった。</p>
	<p>小教科の枠を超えて、指導内容や</p>	<p>・授業研究、公開授業、模擬試験分析を定期的に</p>	<p>・研究授業や公開授業を行い、事後研修</p>

	指導方法の研究・交流を積極的に推進する。	実施し、指導力の向上を図る。		を通して教科内の相互交流を図った。特に、公開授業週間に限らず、授業見学や交流ができたことは有意義であった。 B 実施回数は9回 模擬試験の分析については、次年度に向けて2月に実施する予定である。
保健体育科	基本技能を習得し、体力の向上を図る。	・各種目において基本的な技能の習得とともに、体づくり運動に取り組むことで、体力の向上を図る。		C ・日々の授業の中で体づくり運動等を積極的に実施した結果、男子3.5%、女子10.3%で、全体として7.2%となり、一定の成果があった。
	生涯を通じて、運動を継続的に実践できる能力を養う。	・3年次の選択制体育において、計画的・継続的に運動を実践する姿勢を育てる。		C ・講座によるばらつきがあったが、平均4.1と概ね良好な評価であった。 低い評価の講座については分析の上、今後の授業改善に取り組む。
	健康・安全に関する事柄に興味・関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえる能力を養う。	・保健の課題学習において、生徒の興味・関心を引き出し、科学的に思考・判断する姿勢を育てる。		B ・1・2年生とも課題学習をとおり、自ら課題を持ち、科学的に思考する姿勢を養うことに努めた。 個々の講座についてより分析の上、今後の授業改善に取り組む。平均4.2
	運動部活動の活性化を図る。	・日常的な指導（勧誘）により、加入率を上昇させる。		D ・男子61.5%、女子28.2%、全体として43.5%と低調な結果となった。特に1年生女子の加入率の低下が大きな原因となった。 今後は、入学時に学年部とさらに連携して加入率の向上に努める。
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深めることにより、豊かな情操を養う。	・生徒の表現能力を高めるために校内・校外における発表・展示を行う。		B ・小品であるが管楽器と弦楽器（Vn）の合奏に取り組み、授業を公開した。美術書道作品展で行った発表を含め4回発表をした。 次年度は時間数の配分を工夫する。
		<音楽>		
		<美術>	A ・美術の展示は美術・書道作品展を含めて5回であった。 今後も展示スペースの充実を図る。	
	<書道>	B ・書道の展示は美術・書道作品展を含めて5回であった。 学校生活の様々な場面で多様な芸術作		

			品に触れることができるよう、次年度も展示に努める。
英語科	多様な希望進路に対応できる英語力を養成する。	・予習復習の徹底、日々の演習等の課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。	C ・全国平均（筆記124.15、リスニング24.55）に対して本校受験者の平均は筆記145.5、リスニング25.2であった。次年度、リスニング対策に体系的に取り組む。
	実践的な言語能力の獲得に励む生徒を育成する。	・実用英語技能検定の受検を奨励し、合格に向けた助言や支援を行う。	A ・今年度、第1～2回実施の結果は2級42%、準2級75%、3級50%とまずまずの結果であった。しかし、受検者数は依然少なく、さらなる啓発を図る。
家庭科	生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善を積極的にすすめ、生活力向上につながる授業展開を目指す。	・フードデザインにおいては、食物調理技術検定を受検し、知識・技術の定着および向上を図る。	A ・検定は5月に実施し、フードデザイン選択者5名全員が合格した。今年度は実習検定の練習時間を多くし、技術の定着、向上に努めた。
		・家庭基礎においては、体験・実習・視聴覚教材等を効果的に取り入れ、生活力向上につなげる。	C ・調理実習は各クラス3回実施し、視聴覚教材は8回利用した。今後も生活に活かせる授業内容を心がけるとともに、内容の理解につながる新しい視聴覚教材や体験の開発に努める。
次年度への改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間、OJTを学校経営計画に掲げることにより、教職員に意識の変化が見られたが、教科・分掌の双方においてさらに強固な組織を構築するために継続して取り組む。 ・今年度、「日々の演習」について見直しを図ったが、次年度、共通認識の下、さらなる学力向上を目指して、より効果的な課題提示に対して組織的に取り組む。 ・授業力向上に向け、研究（公開）授業をさらに充実させるとともに指導の骨格であるシラバス・弱点を確認するための模擬試験・実力養成につながる考查問題等に関して教科間で細部に拘りを持つ。 ・頭髪・服装・交通マナー等について、原点に立ち返り、徹底できない一部の生徒の希望進路の実現に向けて教職員一丸となって強い姿勢で臨む。 ・学力差について、学校として総力を挙げて取り組み、それぞれの生徒の希望進路の実現に向けて、使命感を持って努める。1人1人が目標に向かって歩み続けられるよう、細かい配慮と丁寧な指導を継続する。 ・学校の教育目標の1つに、京都府北部の医療問題の解決に資する人材の育成を掲げているが、今年度、大きな成果を見た。今後も、継続して合格者が出るよう、充実した進路指導・高いレベルの学習指導を追求する。 ・自立学習を推進し、生徒が自主的に取り組める学習環境を整備することにより、生涯にわたって伸び続け、リーダーとして活躍できる生徒の育成を目指す。 		